

アジア経済マンスリー(2011年10月)

～タイの洪水はアジア経済に様々な形で悪影響を与えよう～

発表日：2011年10月28日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 西濱 徹(03-5221-4522)

<各国経済の現状判断>

	方向性	コメント
中国		金融引き締めなどの影響はあるが、個人消費は底堅い。食料品価格の上昇によるインフレや、地方政府傘下企業による債務問題などのリスクは燻るが、年末にかけてインフレ率の減速が見込まれ、景気は底堅く推移しよう。
インド		インフレ率は高止まりしているが、個人消費は底堅い。金融当局は先行きのインフレ率の減速を見込み、利上げの終息を示唆しているが、当面は物価と景気のパランスを取る難しい舵取りが続けられよう。
韓国		先進国の景気減速による輸出や生産への悪影響が懸念される。物価上昇圧力が燻る中、金融市場の混乱による悪影響も懸念され、景気への下押し懸念は高まろう。
台湾		先進国の景気減速により輸出への下押し圧力が高まり、生産も頭打ちしている。足下の底堅い雇用は内需を下支えしているが、先行きは減速懸念が高まるであろう。
香港		世界的な景気減速による貿易縮小は景気の重石になっている。また、中国本土からの資金流入は景気を下支えしているが、金融市場が混乱する中でのドル・ペッグ制維持と物価抑制という難しい課題に直面している。
シンガポール		輸出依存度の極めて高い都市国家であり、世界経済の減速による影響を受け易いが、足下では雇用の堅調を背景に内需は底堅い。タイの洪水による食料品価格の上昇懸念など新たな物価上昇要因は懸念される。
マレーシア		輸出依存度が高く、世界経済の減速による影響を受け易いが、雇用改善などが内需を下支えしている。今年も政府はインフラ投資による景気対策を継続しているが、アジアの食料品価格動向は新たなリスク要因となろう。
タイ		世界的な景気減速による輸出への悪影響が懸念される中、50年ぶりの大洪水による操業停止などで景気の下押し圧力は高まっている。操業再開には時間を要すると見込まれ、景気低迷が長期化するリスクも懸念される。
インドネシア		物価上昇圧力は燻るが、内需をけん引役に景気は底堅い。アジアの資源需要の堅調は輸出を下支えしている。インフラ投資計画は景気を下支えしようが、タイからの部品供給が生産のリスク要因となる可能性はある。
フィリピン		世界経済の減速にも拘らず海外労働者の送金は底堅く、インフレ率のピークアウトなども内需を下支えしている。しかし、国内の雇用基盤は依然として厚みが乏しく、輸出環境の悪化も景気の重石となろう。
ベトナム		インフレ率はピークアウトし、景気の底打ちの兆しもみられるが、世界経済の減速による影響が懸念される。金融当局は物価抑制に本腰を入れており、当面は景気の減速感が高まる可能性はあろう。

※方向性は、経済の見通しや政治及び政策の動向を総合的に勘案して判断した、前後1～2ヶ月のモメンタムを示しています。

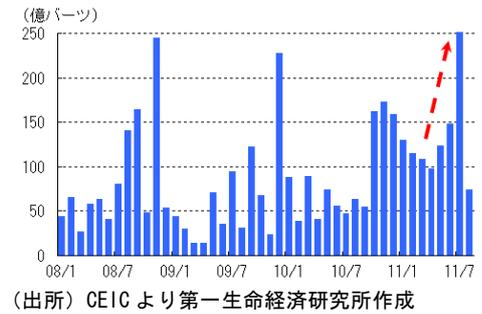
《洪水被害に見舞われているタイ。タイが生産拠点として魅力を高めてきた背景と、今後のアジア経済への影響》

- タイで発生している大洪水は、チャオプラヤ川沿岸の工業団地などに浸水被害をもたらし、多くの企業が操業停止に追い込まれている。同国は1960年代に「東洋のデトロイト」というスローガンの下、自動車産業を軸に工業化を果たすべく、積極的に外資系企業の誘致を図ってきた。さらに、同国は東南アジアの中では貿易自由化に意欲的であり、多くの国や地域との間でFTA(自由貿易協定)やEPA(経済連携協定)の締結などを通じて、輸出拠点としての存在感を高めてきた。結果、同国では川下の加工組立のみならず、部品や素材などの産業の集積も進み、アジア新興国の中では特に裾野産業の厚みのある産業構造を築き上げてきた。さらに、勤勉な国民性や進出企業の技能指導などを背景に、労働コストの低さにも拘らず、高品質な製品を作る高い生産性を実現してきた。
- 東日本大震災後、日本国内では部材などの供給制約が生産の足かせとなり、過度な集積によるリスクが問題視されたことから、生産拠点の分散が意識された。さらに、円高による輸出産業の価格競争力低下も重なり、多くの企業が海外移転に活路を見出そうとしている。インフラ不足や法制度の不備などが新興国への進出の障害とされてきたが、川上から川下まで周辺産業の蓄積が進んでおり、インフラや制度面の整備が進んでいるタイは特に進出し易い国と認識されてきた。このことは、日本からの直接投資申請数が8月末時点で昨年

の通年実績を上回ったことにも現れている。

- 近年はタイ以外のアジア新興国でも生産拠点の進出は続いているが、長い外資導入の歴史があるタイに比べて産業基盤は十分でない。基幹部品などの多くをタイに依存する域内分業が進んでいるため、今回の洪水によるタイでの操業停止は、タイ国内のみならず、サプライチェーンを通じてアジア新興国の生産にも悪影響を及ぼしている。他国での代替生産によって供給維持を図る動きはあるが、先行きのアジア新興国の景気に悪影響が広がる可能性はあろう。

図 日本からタイへの直接投資申請額の推移



《コメ相場高騰によるアジア経済への影響に懸念。セーフティーネットの拡充など日本の果たせる役割は小さくない》

- 今回の洪水では広大な水田も被災している。タイは世界最大のコメ輸出国であり、コメ輸出の低迷による需給ひっ迫によりアジア地域のコメ相場の高騰が懸念される。多くのアジア新興国は、一昨年以降の資源価格の上昇や過剰流動性によって物価上昇に直面し、金融引き締めを進めてきた。そして、世界的な景気低迷リスクが意識される中、年末にかけてインフレ率の鈍化が期待されるようになってきたことから、一部では金融緩和に転じる動きも出てきている。しかし、主食であるコメの市況が高騰すれば、高水準のインフレ率が続くことになり、景気減速懸念が高まるにも拘らずインフレ懸念から金融緩和に踏み切ることが出来ず、景気減速を招く可能性もある。
- 今年はインドシナ半島周辺において雨季の雨量が多く、隣国のラオスやカンボジア、ベトナムにおいても洪水が発生し、フィリピンでも台風による洪水で被害が生じている。最近の国連食糧農業機構の調査によると、各国の水田のうち、タイでは 12.5%、カンボジアでは 12%、ラオスでは 7.5%、ベトナムでは 0.4%、そしてフィリピンでは 6% が被害を受けている模様である。特に、食料品を海外からの輸入に依存するシンガポールやマレーシアなどにおいては、インフレ率の高進が再び意識される可能性がある。
- なお、今月初めに ASEAN+日中韓の 13ヶ国は農相会合を開催し、域内において大災害により食糧供給が困難になった場合を見据えて、共同でコメの備蓄を行う「ASEANプラス3緊急米備蓄協定」に署名しており、当面は試験的に地域全体で 80 万トンを出放可能としている。なお、タイ政府は今回の洪水によるコメの被害は 600 万トンと見通しており、協定に基づく備蓄米がすべて放出されたとしても補いきれない。ただし、備蓄制度を将来的に拡充することは、コメを主食とするアジア圏のセーフティーネットとして重要である。近年、アジアにおいても洪水の発生件数は増加傾向にあり、わが国がこうしたセーフティーネットを主導することを通じて、アジアの安定に資することが期待されよう。

以上

＜中国主要経済指標＞

- ▶ 7-9月期の実質GDP成長率は前年同期比+9.1%と3四半期連続で減速。前期比も+2.3%と前期(同+2.4%)から減速した。前期の反動で第1次産業が減速したほか、金融市場の混乱に伴い第3次産業も減速した。
- ▶ 9月の輸出額は前年同期比+17.1%と前月(同+24.5%)から減速した。一方、輸入額も前年同期比+20.9%と前月(同+30.2%)から減速。前月比は輸出入ともに減少したが、輸出の減少幅は輸入を上回った。結果、貿易収支は+145.14億ドルと前月(+177.85億ドル)から黒字幅が縮小した。

図 CH-1 実質 GDP 成長率



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-2 貿易動向



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-3 都市部固定資産投資



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-4 製造業・サービス業 PMI



(出所) 中国物流購買連合会, Markit

図 CH-5 鉱工業生産



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-6 小売売上高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

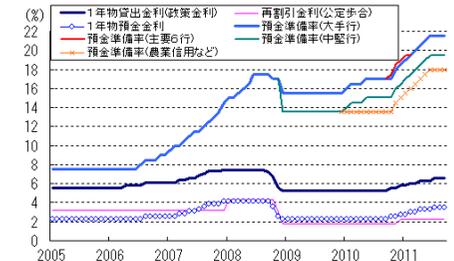
- ▶ 9月の消費者物価は前年同期比+6.1%と前月(同+6.2%)から減速した。食料品価格の上昇を背景に前月比は+0.5%と前月(同+0.3%)から加速している。インフレ率はピークアウトしつつあるものの、向こう数ヶ月は高水準での推移が見込まれ、金融政策も中小企業向け金融に対する一部緩和措置を除き、引き締め姿勢が続くと予想される。

図 CH-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 CH-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

<インド主要経済指標>

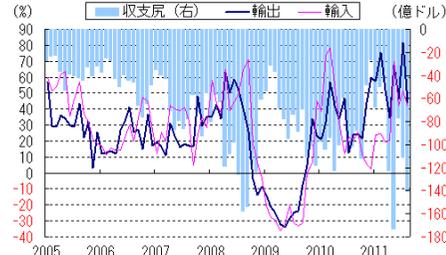
- ▶ 8月の輸出額は前年同月比+44.3%と前月(同+81.8%)から減速し、前月比も3ヶ月連続で減少した。一方の輸入額も前年同月比+41.8%と前月(同+51.5%)から減速し、前月比も減少した。ただし、前月比の減少幅は輸出が輸入を上回り、貿易収支は▲140.42億ドルと前月(▲110.82億ドル)から赤字幅が拡大した。

図 IN-1 実質 GDP 成長率



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-2 貿易動向



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-3 インフラ動向



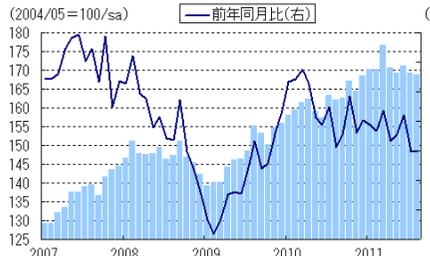
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-4 製造業・サービス業 PMI



(出所) Markit より第一生命経済研究所作成

図 IN-5 鉱工業生産



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-6 四輪車国内販売台数



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

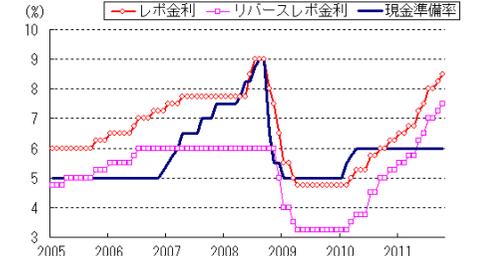
- ▶ 9月の卸売物価は前年同月比+9.72%と前月(同+9.78%)から減速した。前月比は+0.58%と前月(同+0.45%)から加速し、食料品価格の上昇や価格転嫁の浸透などにより物価上昇圧力は熾っている。向こう数ヶ月についてインフレ率は高止まりしよう。
- ▶ 25日、インド準備銀行は定例の金融政策委員会を開催。政策金利であるレポ金利とリバースレポ金利を25bp引き上げ、それぞれ8.50%、7.50%とする決定を行った。当局は先行きのインフレ率について、年度末にかけて減速がみこまれるため、12月の次回会合では金利変更を行う可能性が「低い」と明言。利上げ局面は終息を迎えた可能性が高まっている。

図 IN-7 卸売物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 IN-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

＜韓国主要経済指標＞

- ▶ 7-9月期の実質GDP成長率は前年同期比+3.4%と前期と同じ伸び率であったが、前期比年率は+3.0%と前期（同+3.%）から減速した。個人消費や輸出は底堅く推移したものの、設備投資の減少や在庫調整などが重石となった。
- ▶ 9月の輸出額は前年同月比+18.8%と前月（同+25.5%）から減速、前月比も減少した。一方の輸入額は前年同月比+29.3%と前月（同+28.7%）から加速したが、前月比はわずかに減少した。結果、貿易収支は+15.56億ドルと前月（+3.70億ドル）から黒字幅が拡大した。

図 KR-1 実質 GDP 成長率



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-2 貿易動向



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-8 金融政策



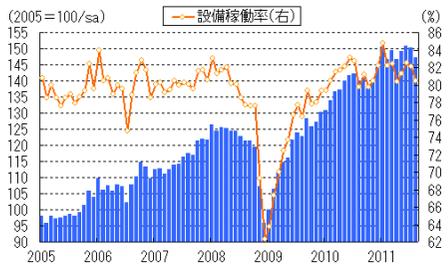
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-3 出荷・在庫バランス



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-4 鉱工業生産



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-5 雇用環境



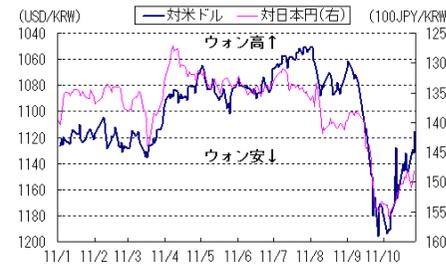
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-6 小売売上高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 KR-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

- ▶ 9月の消費者物価は前年同月比+4.3%と前月（同+5.3%）から減速した。前月比も+

0.08%と前月（同+0.91%）から減速しており、食料品やエネルギー価格の上昇一服が影響した。なお、雇用の堅調を背景にコア物価は前年同月比+3.9%と物価目標（2～4%）の上限近傍に達しており、一部で不動産バブルも燃るなど物価上昇圧力は残っている。

▶ 韓国銀行は13日、定例の金融政策委員会で政策金利を4回連続で3.25%に据え置いた。世界経済の減速や金融市場の混乱による景気への悪影響を懸念する一方、インフレ率の高止まりや不動産バブルを警戒している。当面は現行水準での様子見を図る可能性が高いと見込まれる。

＜台湾主要経済指標＞

➤ 9月の輸出額は前年同月比+9.9%と前月（同+7.2%）から加速、前月比も+4.5%増加した。一方の輸入額は前年同月比+10.8%と前月（同+6.4%）から加速し、前月比も+8.1%増加している。結果、貿易収支は+17.75億ドルと前月（+26.27億ドル）から黒字幅が縮小している。

図 TW-1 実質 GDP 成長率



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-2 貿易動向



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-3 出荷・在庫バランス(電子部品)



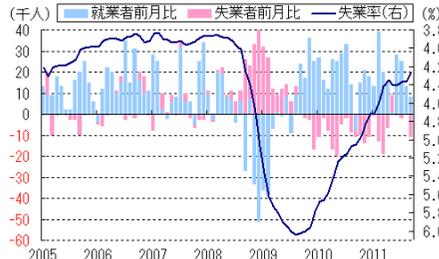
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-4 鉱工業生産



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-5 雇用環境



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-6 小売売上高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

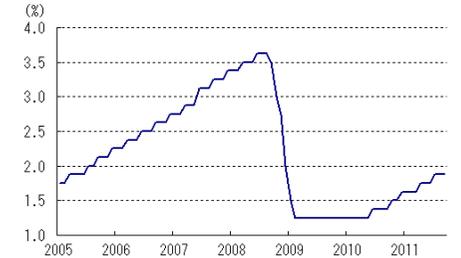
➤ 9月の消費者物価は前年同月比+1.35%と前月（同+1.34%）から加速した。前月比も+0.09%と前月（同+0.00%）から加速し、食品やエネルギー、住宅価格の上昇が物価を押し上げた。一方、コア物価は前年同月比+0.71%と前月（同+0.86%）から減速、前月比も▲0.27%と3ヶ月連続で下落している。金融当局は先月末の金融政策委員会において、インフレ圧力の後退を理由に6回ぶりに政策金利を1.875%に据え置いた。金融市場の混乱による海外資金の流出で台湾ドル安が進み、当局は急激な為替変動を抑制するために台湾ドル買い介入も辞さない姿勢を示した。しばらくは現行水準での様子見を図ろう。

図 TW-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TW-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

<香港主要経済指標>

➤ 9月の輸出額は前年同月比▲3.0%と23ヶ月ぶりに前年割れとなった。前月比も大幅に減少しており、世界経済減速の影響が現れている。一方の輸入額は前年同月比+2.3%と前月(同+14.1%)から減速しており、前月比も減少している。結果、貿易収支は▲399.61億HKドルと前月(▲347.76億HKドル)から赤字幅が拡大した。

図 HK-1 実質 GDP 成長率



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-2 貿易動向



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-3 来訪者数



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-4 小売売上高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-9 為替相場(月次)



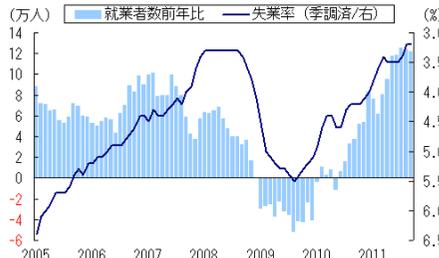
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-10 株式相場(月次)



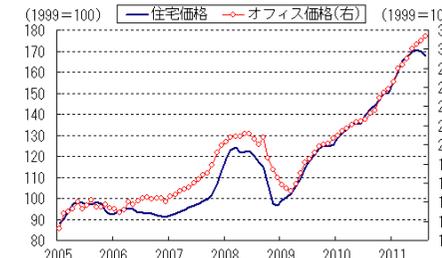
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-5 雇用環境



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-6 不動産価格



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 HK-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

＜シンガポール主要経済指標＞

- ▶ 7-9月期の実質GDP成長率（予測値）は前年比+5.9%と前期（同+0.9%）から加速した。前期比年率も+1.3%と2四半期ぶりにプラスに転じており、製造業が回復の一方、建設業やサービス業は一服しており、景気の拡大ペースは大きく鈍化している。
- ▶ 9月の輸出額は前年同月比+7.1%と前月（同+4.1%）から加速した。前月比も+1.4%と2ヶ月連続で増加し、石油需要の底堅さが影響した。一方の輸入額は前年同月比+6.8%と前月（同+16.8%）から大きく減速した。前月比も前月の反動で▲8.6%と減少している。結果、貿易収支は+66.94億SGドルと前月（+26.81億SGドル）から黒字幅が拡大した。

図 SG-1 実質 GDP 成長率



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-2 貿易動向



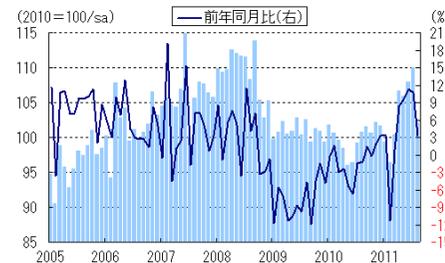
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-3 鉱工業生産



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-4 小売売上高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-5 雇用環境



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-6 来訪者数



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

- ▶ 9月の消費者物価は前年同月比+5.5%と前月（同+5.7%）から減速した。前月比も+0.02%と前月（同+0.54%）から鈍化しており、エネルギー価格の軟化が物価上昇圧力を緩和している。一方、不動産価格やサービス価格は上昇しており、海外資金流出による過剰流動性の緩和にも拘らず、依然物価上昇圧力は熾っている。

図 SG-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-8 市場金利



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 SG-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

＜マレーシア主要経済指標＞

➤ 8月の輸出額は前年同月比+10.9%と前月（同+7.1%）から加速したが、前月比は▲1.5%減少した。一方の輸入額も前年同月比+6.9%と前月（同+2.9%）から加速したが、前月比は▲0.7%と5ヶ月連続で減少した。結果、貿易収支は+109.81億リンギと前月（+94.52億リンギ）から黒字幅が拡大した。

図 MY-1 実質 GDP 成長率



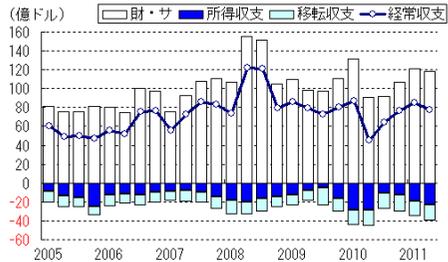
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-2 貿易動向



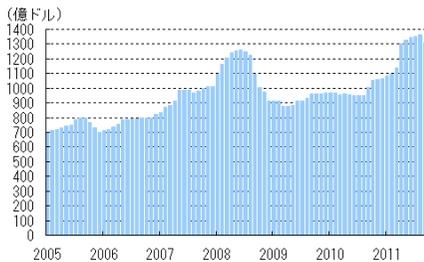
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-3 経常収支



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-4 外貨準備高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-5 鉱工業生産



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-6 自動車販売



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

➤ 9月の消費者物価は前年同月比+3.4%と前月（同+3.3%）から加速した。前月比は+0.19%と同じ伸びであったが、食料品価格が上昇する一方、原油価格の軟化を背景にエネルギー価格は下落している。ただし、価格転嫁の浸透や雇用の底堅さを背景にサービス価格は依然として上昇しており、過剰流動性の緩和にも拘らず物価上昇圧力は熾る。

図 MY-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 MY-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

＜タイ主要経済指標＞

▶ 9月の輸出額は前年同月比+19.1%と前月（同+31.1%）から減速し、前月比も4ヶ月ぶりに減少した。一方の輸入額は前年同月比+41.9%と前月（同+44.0%）から減速し、前月の反動で前月比は減少に転じている。結果、貿易収支は+2.38億ドルと、前月の▲12.03億ドルの赤字から黒字に転換している。

図 TH-1 実質 GDP 成長率



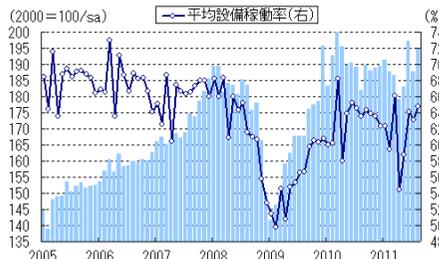
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-2 貿易動向



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-3 鉱工業生産と設備稼働率



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-4 来訪者数



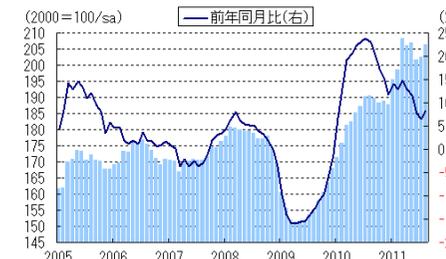
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-5 民間消費



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-6 民間投資



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

▶ 9月の消費者物価は前年同月比+4.03%と前月（同+4.29%）から減速した。前月比も▲0.33%と前月（同+0.43%）から下落し、エネルギー価格の低下が影響した。一方、コア物価は前年同月比+2.92%と前月（同+2.85%）から加速、前月比も上昇基調は続く。海外資金の流出により足下ではパーツ安圧力が掛かり、当局はパーツ買いを実施している。

▶ 19日、タイ銀行は定例の金融政策委員会を開催し、政策金利を4回ぶりに3.50%に据え置いた。物価上昇圧力は燻る一方、海外経済の悪化や洪水による景気下押し懸念が高まったことから、現行水準での様子見となった。なお、翌日の財務相との会談後、中銀総裁は「必要であれば」緊急利下げに踏み切る可能性に言及している。

図 TH-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 TH-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

＜インドネシア主要経済指標＞

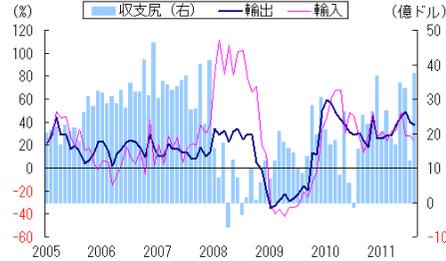
▶ 8月の輸出額は前年同月比+37.1%と前月（同+39.5%）から減速した。しかし、前月比は増加して単月ベースの輸出額は過去最高となり、原油や天然ガスの需要の堅調が輸出を下支えた。一方の輸入額は前年同月比+23.7%と前月（同+28.4%）から減速、前月比も減少した。結果、貿易収支は+37.58億ドルと前月（+12.11億ドル）から黒字幅が拡大した。

図 ID-1 実質 GDP 成長率



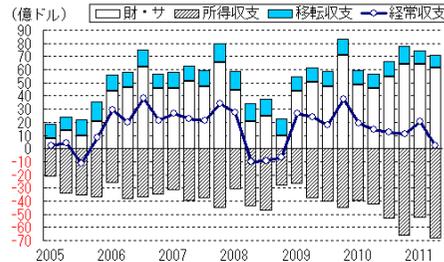
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-2 貿易動向



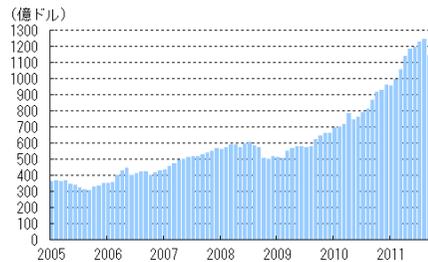
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-3 経常収支



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-4 外貨準備高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-5 鉱工業生産



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-6 小売売上高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

0.27%と前月（同+0.93%）から鈍化し、食料品やエネルギー価格の上昇一服などが影響した。雇用改善を背景にコア物価は加速してきたが、9月は前年同月比+4.93%と前月（同+5.15%）から減速、前月比も+0.39%と前月（同+1.09%）から鈍化した。

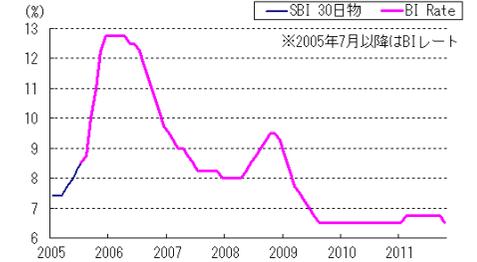
▶ 11日、インドネシア銀行は金融政策委員会にて2年2ヶ月ぶりの利下げを決定し、政策金利を25bp引き下げ6.50%とした。足下のインフレ率が落ち着いてきた中、世界経済の減速や金融市場の混乱による景気への悪影響を懸念して金融緩和に踏み切った。

図 ID-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 ID-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

▶ 9月の消費者物価は前年同月比+4.61%と前月（同+4.79%）から減速した。前月比も+

＜フィリピン主要経済指標＞

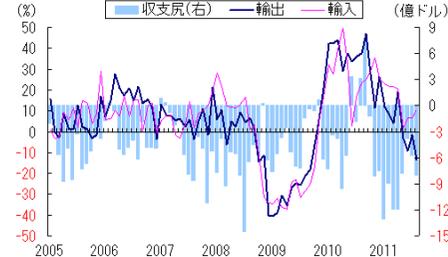
▶ 8月の輸出額は前年同月比▲13.7%と前月（同▲1.7%）からマイナス幅が拡大した。前月比も減少しており、世界的な景気低迷の影響を受けている。一方の輸入額は前年同月比+10.4%と前月（同+6.6%）から加速し、底堅い内需を反映して前月比も増加している。結果、貿易収支は▲8.04億ドルと前月（▲5.70億ドル）から赤字幅が拡大している。

図 PH-1 実質 GDP 成長率



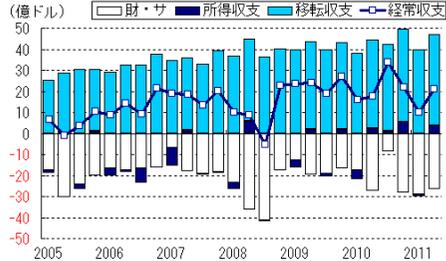
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-2 貿易動向



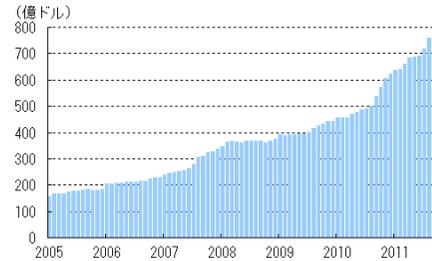
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-3 経常収支



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-4 外貨準備高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-5 海外労働者送金



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-6 鉱工業生産

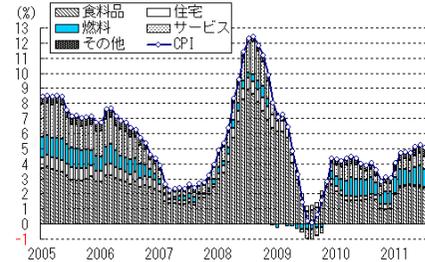


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

▶ 9月の消費者物価は前年同月比+4.8%と前月（同+4.7%）から加速した。前月比も+0.16%と前月（同+0.08%）から加速し、食料品価格の上昇が物価を押し上げた。一方、海外資金の流出により過剰流動性は緩和してコア物価は下落している。

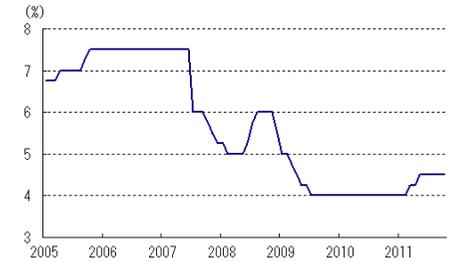
▶ 20日、フィリピン中央銀行は定例の金融政策委員会を開催し、3回連続で政策金利である翌日物借入金利と翌日物貸付金利をそれぞれ4.50%、6.50%に据え置いた。消費者物価、コア物価上昇率がともに当局のインフレ目標（3～5%）に収まっており、先行きについて物価上昇圧力は後退するとの見通しを示した。世界的な金融市場の混乱により、同国においても過剰流動性は緩和しており、しばらくは現行水準での様子見が続こう。

図 PH-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-9 為替相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 PH-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

＜ベトナム主要経済指標＞

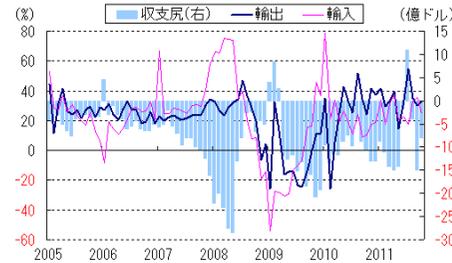
- ▶ 10月の輸出額は前年同月比+33.3%と前月（同+30.3%）から加速し、前月比も増加した。一方の輸入額は前年同月比+24.6%と前月（同+35.4%）から減速し、前月比も減少している。結果、貿易収支は▲8.00億ドルと前月（▲15.01億ドル）から赤字幅が縮小した。

図 VN-1 実質 GDP 成長率



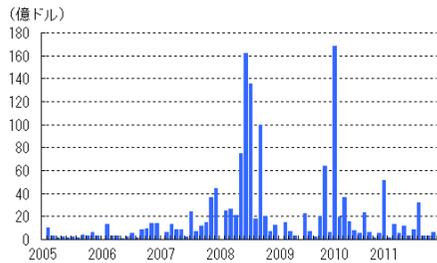
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-2 貿易動向



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-3 対内直接投資認可額



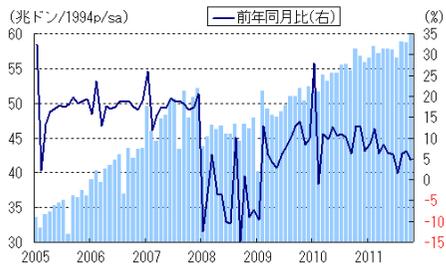
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-4 来訪者数



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-5 鉱工業生産



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

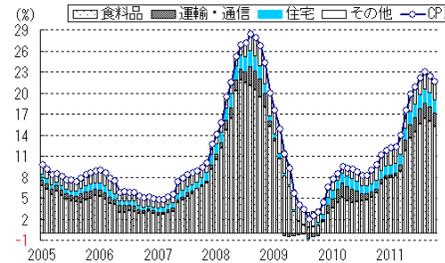
図 VN-6 小売売上高



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

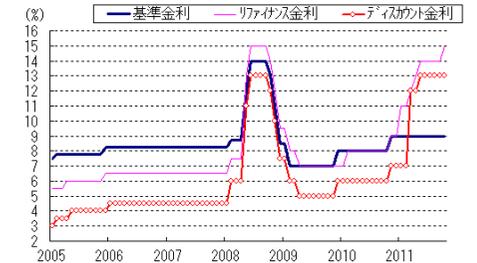
- ▶ 10月の消費者物価は前年同月比+21.6%と前月（同+22.4%）から減速。前月比も+0.36%と前月（同+0.82%）から減速し、食料品やエネルギー価格の上昇一服が影響した。足下では通貨ドンの対米ドル為替レートは安定し、輸入物価の上昇も収まりつつある。
- ▶ 6日、ベトナム国家銀行（中央銀行）は10日付で政策金利のうちリファイナンス金利を100bp引き上げて15.00%とする決定を行った。年明け以降は利上げによる金融引き締めを進めてきており、足下でインフレ率がピークアウトしているため、追加引き締めによるインフレ抑制を目指している。なお、基準金利やディスカウント金利は据え置かれている。

図 VN-7 消費者物価(前年比)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-8 金融政策



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-9 為替相場(月次)



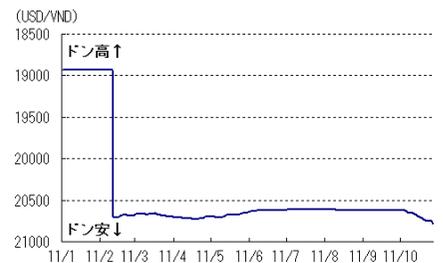
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-10 株式相場(月次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-11 為替相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 VN-12 株式相場(日次)



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成